

文化

▼拔(路地)と辻子  
「和州奈良之図」を見て  
いる。天保十五(一八四四)  
年「奈良大佛前 絵圖屋庄  
八」の板行になる。古絵図  
の上部(東方)に高円、春  
日、御蓋、三笠の山々が描  
かれ、春日神社(大社)の  
参道わきには、鹿がいる。  
猿沢池のやや下方に、「志  
のむろ」の文字が見える。  
『奈良坊自拙解』(村井  
古道)の元林院(がんりい  
ん)町のところは、「南北  
の通りを絶屋町、西に入る  
小路を四の室辻子と云ふ」  
とあって、道の一方は、餅  
飯殿(もちいど)の町に通  
じている。人ふたりが並ん  
で通るには、ぎりぎりのま  
ことに狭い道すじではある。  
祖母はよく「スケロオ  
ジ」といふ言い方を口にし  
た。江戸末の風俗志『守貞  
謾稿』(喜田川守貞)に、  
「路次東西或は南北街に質

## 奈良の町の「辻子と突抜

(下)

26 西村 博美

## 民俗通信

26 西村 博美

この名前がない細道の小  
な家に仮住まいしていたこ  
とがある。

解に見える「辻子」の数は、四十例を越える。▼「辻子」について奈良町に辻子とよばれる小路が多いわけを、「奈良市史」(通史三)は、「町並みの入口の増加に伴う、

小路を四の室辻と云ふ。とあって、道の一方は、餅飯殿（もちいどの）町に通じてゐる。人ふたりが並んで通るには、ぎりぎりのまことに狭い道すじではある。祖母はよく「スケオオジ」という言い方を口にした。江戸末の風俗志『守貞謾稿』（喜田川守貞）に、「路次東西或は南北街に貫

「和州奈良之図」を見て、いる。天保十五(一八四四)年「奈良大佛前 絵圖屋庄八」の板行になる。古絵図の上部(東方)に高円、春日、御蓋三笠の山々が描かれ、春日神社(大社)の参道わきには、鹿がいる。猿沢池のやや下方に、「志のむろ」の文字が見える。

「辻子町」、「辻子郷」とり、今小路町の項にも「中近世都市の歴史地図」(中近世都市の歴史地図)。御門前より手搔大門前乃至中世に至つて東側通り、……  
▼押上町のあたり  
「和州奈良之図」をたどり、人家など悉く(とどく)東大寺西面大垣築地であつたと載せてゐる(傍縁:引用者)。奈良坂越えの京

これが別の史料でわかる。〔一にきよがいし〕  
建久八年（一九七）の僧  
金徳家地の「売券」（売却  
証文）に、「在東大寺國分  
郡押上辻子之内南邊」と記  
されている〔鎌倉遺文〕。  
「押上辻子」が奈良における  
鷺町に通じ、後の

つた⑤つまり、「辻子」が先で、そこに家並みが付着してやがて「町」になり「郷」が形成された時、辻子は

門より南方で、之を押上町と云ふ。当初は東大寺国分門脇築地が東側に有つて、まだ人家がなかつた一とあ

「押上辻子」の名があった。名は忘れだが、ひいきの國分綱は後の押上であつて、誰をさうに會うる永島福太郎（奈良）。ちなんに、押上郷のなかにた。その「誰をさう」とは、ひいきの國分綱が、誰かのことを思つて言つたのである。

向から、半田突抜・大豆山  
(まめやま) 突抜・芝突抜  
・川之上突抜の四例がある  
が、「川之上突抜町」は足



狐ヶ辻子

四ノ室辻子

不審ヶ辻子

(にしむら・ひろみ) 詩  
人、奈良民俗文化研究所研究員

二四三四六